

**「令和 6 年度ボイラー溶接士免許試験公表問題及びその解答解説」
(2025 年 6 月発行) 正誤表**

発刊後に問と解答に誤りがあったと公表(2025 年 7 月 11 日)されました。

該当の公表問題及びその解答解説を下記の通り訂正いたします。

頁	訂正箇所	誤	正
133 問 13	設問	深 傷試験	探 傷試験
	(1) C		
	(3) C		
	〔解説〕	下記のとおり〔解説〕全文差し替え	
155 問 35	〔答〕	(3) A, C, D	(4) A, D
	〔解説〕	裏面のとおり〔解説〕一部訂正	

問 13

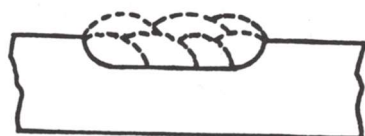
〔解説〕 肉盛りについての問いである。

肉盛り溶接法は、局所的な腐食や摩耗などによる減肉箇所に、溶接盛金を施す方法である。このことを正しく理解しないで乱用し、その結果、溶接熱により大きなひずみを生じたり、修繕部に応力を残留させたりすることがあるため、その採否については慎重な検討が必要である。

肉盛り溶接は、通常次のような手順で行われる。

- ① 肉盛り部は、健全な地肌が出るまでグラインダなどを用いて研削する。
- ② 研削の仕上げ面は、溶込み不良などが生じないよう、緩やかな傾斜面に仕上げる。
- ③ 肉盛り面を検査し、割れその他有害な欠陥がないことを確かめる。
- ④ 肉盛りの範囲を明確にして、溶接する。

- ⑤ 最終層の組織を改善するために余盛りを行う。
- ⑥ 余盛りは、必要に応じて板面と同一面まで平滑に仕上げる。
- ⑦ 探傷試験を行って、修繕部に有害な欠陥がないことを確かめる。



(a) 良い例



(b) 悪い例

したがって、A：溶込み不良、B：余盛り、C：探傷試験 でその組合せは、(3)である。

[答] (3)

[ポイント] 肉盛りの必要性、効果及び放射線検査と余盛の高さ規定について覚えておくこと。(溶接士教本 P. 46、47、51、71、90、99)

問 35

[解説] アーク溶接作業時に生じる健康障害についての問いである。

溶接作業中に発生するヒュームを長年吸うと、・・・中省略・・・

したがって、B、Cの記述は誤りである。Cに関しては亜鉛メッキ鋼板や黄銅の有害成分は亜鉛(Zn)・銅(Cu)ヒュームであり、鉛(Pb)中毒に結び付けている点が不適切である。適切なものは、A、Dで、その組合せは(4)である。

[答] (4)

以上